

社会福祉法人による「地域共生社会」西北モデル強化事業

中泊町地域貢献活動連絡協議会 地域貢献活動実証結果報告書

《地域貢献活動モデル実証事業》

1. 地域ナース活動(令和5年3月～)
2. 共生の場づくり(令和5年7月～)
3. 災害時の連携・支援体制(令和5年7月～)

令和7年3月提出

1. 地域ナース活動

| | |
|------|---|
| 事業名 | 地域ナース活動 |
| 目的 | <p>研修を終了した地域ナース(コミュニティナース)を設置し、専門性を活かしながら、制度にとらわれない、多様なケアを実施し、地域のなかで住民と接することにより、普段から健康意識を高めるアプローチや、病気の早期発見、保健・医療・福祉・行政機関への橋渡し等を行う。</p> <p>年間を通して週1回程度で地域に出向き活動を行う。集いの場や各種行事、スーパー等の店舗での健康チェック・健康相談を行い町民の健康意識の向上を図る。</p> |
| 活動内容 | <p>・令和5年3月から週1日2時間程度を基本とし、公共施設、店舗、移動販売、サロン活動の場、町及び団体等のイベント等で、血圧測定や健康チェックを行いながら健康相談等を実施する。</p> <p>※事業実施要綱上、地域ナース活動においては、養成講座を修了した看護師資格を持った地域ナースが地域に出向き、健康相談や健康チェック等から住民の健康意識を高め、必要に応じて関係機関への橋渡し活動を行う。</p> <p>・地域ナース活動の企画(共生の場づくり等)、調整及び活動者のサポートを事務局が行う。</p> <p>看護師による地域ナース活動のサポートのほか、地域行事等を住民の方と一緒に企画し、暮らしの導線に溶け込みながら、地域へ係わり、住民と一緒にうれしいや楽しいを創ることで広く健康にアプローチする活動を行う。地域へのかかわり方で「コミュニティ維持」を支援。</p> <p>・研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇コミュニティナースベーシック講座受講 ◇県ナース協会主催研修会への参加 ◇みまもりさん養成講座への参加 |

地域ナース活動事業<活動実績>

| 年 度 項 目 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 備 考 |
|------------------------|-------------------------------|---------------------|---|--|
| ベーシック講座等受講者【主催:(株)CNC】 | ・看護師(准)1人 ・事務局2人 (累計3人) | ・看護師(准)3人 (累計6人) | ・医師1人 ・看護師(准)3人 ・介護支援専門員1人 (累計11人) | ・医師1人 ・看護師(准)7人 ・介護支援専門員1人 ・事務局2人 |
| 地域ナース活動者(実動人数) | 1人 | 4人 | 4人 | 看護師(准)が活動 |
| 活動回数(2時間程度の活動) | 4回 | 50回 | 61回 | |

| | | | | |
|-------------|---|---|--|--|
| 健康チェック・健康相談 | 45 件 (中里地域 29 件・小泊地域 16 件) | 875 件 (中里地域 567 件・小泊地域 308 件) | 953 件 (中里地域 436 件・小泊地域 517 件) | |
| 主な活動場所 | ・公共施設 ・住民サロン | ・商店、直売所 ・移動販売 ・公共施設 ・住民サロン(集会所等) ・町イベント(保健師と活動) | ・商店、直売所 ・移動販売 ・公共施設 ・住民サロン(集会所等) ・町イベント(保健師と活動) ・認知症カフェ | |
| 備 考 | 3月から活動開始 | | | |
| 費 用 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ナース活動者の活動報酬及び交通費 ・消耗品等 ・車両燃料費 ・広報活動費 | | | |
| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域ナース活動の場として、集いの場や商店(スーパー等)に外出して来る町民を対象としていたため比較的元気な方ばかりで他機関に繋げるケースはほぼなかった。 ・小泊地域での活動場所が限られているため、活動場所を増やせるよう調整したい。 ・「地域ナース活動」の人材確保については、11 人が講座を受講【医師 1 人、准看護師 7 人(診療所 2 人・中泊町社協 2 人・一般町民 3 人)、ケアマネージャー 1 人、事務局 2 人】研修を終了し、現在活動中であるが、協議会会員である社会福祉法人等が経営する施設からの看護師派遣は人手不足のため困難と思われる。 ・モデル実証中の期間は活動時間(1 日 2 時間程度)が限られ、各家庭への訪問活動は難しいと思われる。 ・民生児童委員や行政連絡員の活動とタイアップ、地域包括支援センターと連携しながら、引きこもりがちの町民へのアプローチ方法を検討する必要がある。 ・地域ナース活動(実働)者(4 人)と実施派遣場所、冬期間や農繁期での派遣場所等とのマッチングが困難な場合もある。 | | | |
| 改善策・地域連携方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・集いの場には不参加であっても、買い物に外出して来る人はいると思うので、スーパーストア中泊ベル店や特産物直売所ピュア等での活動は継続していきたい。また、店舗等の活動においては、町保健師と連携しながら知識を深め、油分や塩分の多い食材等について来店者に注意を促すことができる。 ・「地域ナース活動」の認知度が、まだまだ低いので民生児童委員等を通しての PR 活動や 1 人暮らしの集いの場などへの参加、広報等を使って事業啓発を図る。 ・引きこもりがちな住民を集いの場に誘うには、地域の方の協力が不可欠であり、各地区住民との連携を強化するため「地域ナース活動」の PR を行う。 ・地域ナース活動を実施する上で、コミュニケーション技術のスキルアップを図る研修受講も必要である。 ・「地域ナース活動」を PR し、休職中の看護師等資格をもっている町民を掘り起こし「地域ナース活動」で、地域活動への参加、就労等の職場復帰に向けた活動支援の一助とする。 | | | |

| | <p>・民生児童委員や町内会関係者、兼任集落支援員と連携することで、外出が困難な方や外部との接触を拒みがちな方の情報を得ることができるので、令和7年度以降は自宅訪問活動も視野にいれ、外出や地区住民との交流の場への参加の促しで健康活動を行うことができる。</p> <p>また、認知症者の早期発見、認知症になっても役割を持っていただき地域へ参加を促すとともに、地区住民へ認知症について理解していただくよう支援することができる。</p> <p>・過疎地域である小泊地域の小泊診療所医師及び看護師がコミュニティナースペース講座の受講を終えたことから、本協議会の地域ナース活動者と情報共有を図れる機会を得た。また、保健師への活動相談のほか、医師等への健康活動の相談をすることが今後できる。</p> <p>・令和7年度は看護学校の生徒の実習先として、受け入れる予定がある。</p> <p>・実証終了後の令和7年度からは、生活支援体制整備事業の財源を活用し実施する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---------|-----------|-----|--|-----|------|-------|-----|----|-----|-----|----|-------|-----|----|-----|-----|--|
| <p>効 果</p> | <p>・「地域ナース活動」では、外出して来ている人を対象としていたため、病院や包括支援センターに繋げるような緊急かつ深刻な相談は特になく、大半の方は、血圧が高く薬で調整されている方がほとんどであったが、町民が直接、病院や関係機関に出向く前に、地区の看護師が町民との何気ない会話から、病院受診や健診への促し、関係機関に繋ぐことができる活動は、町民の健康意識向上に効果的である。</p> <p>・血圧測定時、体の気になる事や血圧の心配ごとの相談を受け、食事で気を付けることや、適切な運動を行うなど町民にアドバイスすることができた。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>ニーズ調査結果</p> | <p>質問 「地域ナース」の活動は今後も必要だと思いますか。</p> <table border="1" data-bbox="347 1272 1492 1691"> <thead> <tr> <th>年度 \ 項目</th> <th>必 要</th> <th>不 要</th> <th>どちらとも言えない</th> <th>無回答</th> <th>ご意見等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>66件</td> <td>1件</td> <td>25件</td> <td>17件</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>50件</td> <td>1件</td> <td>25件</td> <td>24件</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も続けて欲しい ・大変助かっています ・もう少し活動の場を広げたら良いのでは？ </td> </tr> </tbody> </table> | 年度 \ 項目 | 必 要 | 不 要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | 令和5年度 | 66件 | 1件 | 25件 | 17件 | なし | 令和6年度 | 50件 | 1件 | 25件 | 24件 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も続けて欲しい ・大変助かっています ・もう少し活動の場を広げたら良いのでは？ |
| 年度 \ 項目 | 必 要 | 不 要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和5年度 | 66件 | 1件 | 25件 | 17件 | なし | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和6年度 | 50件 | 1件 | 25件 | 24件 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も続けて欲しい ・大変助かっています ・もう少し活動の場を広げたら良いのでは？ | | | | | | | | | | | | | | |



**住民主体のサロン
(中泊町小泊老人憩の家)**



**ピュア移動販売
(高齢者生活福祉センター)**



中泊町特産物直売所「ピュア」店舗



**中泊町健康づくりMY フェスタ
(町イベント参加)**

2. 共生の場づくり

| | |
|------------|--|
| <p>事業名</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・小学児童学習支援活動(夏休み・冬休み学習会) ・多世代交流会(地区交流サロン)の実施及び実施支援 ・ボランティアサンタクロース活動 |
| <p>目的</p> | <p>地域を巻き込み、全世代による「共生の場づくり(居場所づくり)」を図りながら、地域住民には役割をもってもらい、小・中・高等学校の児童・生徒等には、社会福祉や地域活動への関心や理解を深めるとともに、地域での体験活動を通して、思いやりの心やお互いに連携し助け合う力を養い、併せて家庭や地域への啓発を図ることを目的に各種取組を実施する。</p> <p>モデル実証として設定した「ポイント」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域住民＋地域の社会福祉法人＋社協」の「三者協働」ができる。 2. コミュニティナース活動の知見を活かせる。 (住民と一緒にうれしいや楽しいを創ることで広く健康にアプローチする活動を行う。) 3. 資源の活用と地域への係り方で「コミュニティ維持」の支援ができる。 4. 多世代住民の直接参加、集まることで地域の可能性が広がる。 |

《小学児童学習支援活動(夏休み・冬休み学習会)》

| | | | |
|--------------|--|--|---|
| 活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・小学児童の夏休み、冬休みの学習支援及び居場所づくりとして、宿題、工作、作文等の勉強会を実施。 ・小学児童の宿題でわからないところを地域住民等(ボランティア先生)が指導。 ・地域の住民等(ボランティア先生)や協議会会員によるレクリエーション、本の読み聞かせ等で交流。 ・令和6年度については、午前は学習会、午後の時間で中里地域(尾別、上高根)、小泊地域と地域包括支援センターとの共催で「認知症サポーター養成講座」「高齢者疑似体験」を実施。福祉への理解を深め、「棒パンづくり」や「かき氷づくり」「トランプ大会」「繭玉飾りづくりの」体験」等で、児童、地域住民ボランティア、協議会会員職員で交流を図った。 | | |
| 開催日時 開催場所 | 令和5年度 小学児童学習 支援活動 (8回) | <p style="text-align: center;">《夏休み学習会》</p> 中里地域: 中泊町中央公民館 小泊地域: 高齢者生活福祉センター | <p style="text-align: center;">《参加者延べ73人》</p> 児童 52人 ボランティア先生 13人 協議会応援職員 8人 |
| | | <p style="text-align: center;">《冬休み学習会》</p> 中里地域: 中泊町老人福祉センター 小泊地域: 高齢者生活福祉センター | <p style="text-align: center;">《参加者延べ71人》</p> 児童 43人 ボランティア先生 18人 協議会応援職員 10人 |
| | 令和6年度 小学児童学習 支援活動 (8回) | <p style="text-align: center;">《夏休み学習会》</p> 中里地域: (福)内湯療護園 小泊地域: 高齢者生活福祉センター | <p style="text-align: center;">《参加者延べ157人》</p> 児童 110人 ボランティア先生 14人 協議会応援職員 33人 |
| | | <p style="text-align: center;">《冬休み学習会》</p> 中里地域: (福)向明会 小泊地域: 高齢者生活福祉センター | <p style="text-align: center;">《参加者延べ147人》</p> 児童 68人 ボランティア先生 20人 協議会応援職員 31人 地区住民 28人(認知症サポーター養成講座を児童と一緒に受講) |
| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動者(先生)の確保。 ・小学児童への周知。 ・開催日及び開催時間の設定(児童及びボランティアが参加しやすい日や長時間実施の場合の低学年児童への対応を工夫するなど。) ・学習会開催場所の確保。各地区の集会所等での実施も検討。 ・移動手段(送迎等)の検討。 ・協議会会員の協力。 | | |
| 費 用 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動保険(ボランティア行事用保険) ・食糧費(おやつ、飲み物、昼食等) ・賃借料(会場借上げ料) ・教養娯楽費(レクリエーション用品等) ・ボランティア交通費(交通費(謝礼兼ねる)としてクオカードを贈呈) | | |

| | |
|-------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・広報活動費 ・車両燃料費 |
| <p>改善策・地域連携方策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・社協だよりや西北管内の高等学校や弘前、青森の大学等への周知で、ボランティア先生の人材確保をする。 ・小学児童へ周知のため、教育委員会へチラシの配布依頼をする。 ・開催場所について、地区の集会所等を利用し、地区住民が子供等の居場所づくりや住民同士が交流できる仕組みづくりのため協議会(各社会福祉法人)が「ほんの少し」運営支援を行うことで地域住民や地域イベントとして、自主的に実施できる。 ・社会福祉法人の積極的な係わりや支援で「社会福祉法人の地域貢献活動」の推進に繋がる。 ・実証終了後の令和7年度からは、「認知症地域支援・ケア向上事業」の財源を活用し実施する。 |
| <p>効果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学児童、西北五管内の高校生、青森県内の大学生、教員OBや元保育士の方の参加があり、小学児童の居場所作りや地域住民(ボランティア先生)との交流を通して地域の温かさに触れることができた。 ・家では、共働きで宿題を中々見てあげられない家庭や、ゲームなどで中々進まない宿題に集中して取り組むことができ、保護者に対する子育て支援ができた。 ・普段は接することのない他校の児童との交流を深めるとともに、高学年が低学年の宿題を教えるなど協力することができた。 ・会員の法人や地域の集会所で開催することができた。 ・地域包括支援センターと連携し「認知症サポーター養成講座」で小学児童、ボランティア、地域の方と一緒に福祉についての理解を深め「誰もが暮らしやすい地域」「ささえあえる地域」を目指し学ぶことができた。 ・コミュニティや社会資源、人材等を活用し「地域共生社会」の実現を図ることができた。 ・地域貢献活動をマスコミ(新聞)に取り上げてもらう等、積極的な情報発信ができた。 |



中里地域 学習会の様子



中里地域 小学児童学習会



小泊地域 学習会の様子



高齢者疑似体験の様子



認知症サポーター養成講座の様子

《多世代交流会(地区交流サロン)》実施及び実施支援

| | | |
|--------------|--|--|
| 活動内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ご近所に暮らす子どもから大人、高齢者まで様々な世代の地域住民の方が集まり、一緒に活動する。 ・世代を超えて人と人とのつながり、支え合うことで、みんなが安心して暮らすことができる地区を目指す。 ・サロン活動の実施を検討している地区と合同で実施、支援することで自主的な地区交流サロンの実施を図る。 | |
| 開催日時 開催場所 | 令和5年度 (3回) | 参加者延べ 139人 (子供 42人・地区住民 77人・協議会関係者 20人) |
| | 令和6年度 (4回) | 参加者延べ 262人 (子供 69人・地区住民 168人・地区スタッフ、協議会関係者 25人) |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・協議会会員の協力 ・自主的開催を検討している地区への周知方法等 | |
| 費用 | <ul style="list-style-type: none"> ・食糧費(おやつ、ジュース等) ・教養娯楽費(レクリエーション用品等) ・消耗品費 ・車両燃料費 ・広報活動費 | |
| 改善策・地域連携方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・早めの周知とこども園、小学校等への周知を工夫する。 ・民生委員児童委員や集落支援員を巻き込み、多世代交流会を実施してみたい地区の募集を行う。 ・協議会が最初の企画や運営サポート等の要請に応じていくことでコミュニティ維持に繋がる。(※主役は地域(地域住民)という意識づけが必要。) ・地域には活用できる既存の資源(施設・組織・団体・人物など)が沢山あり、組合せ次第で色々な活動に発展できる可能性がある。既存の資源をうまく活用し地域づくりを発展させることもできる。 <p>・実証終了後の令和7年度からは、「認知症地域支援・ケア向上事業」の財源を活用し実施する。</p> | |
| 効果 | <ul style="list-style-type: none"> ・開催地区の住民が各家庭へ周知を図ってくれたこともあり、地域の子どもと、高齢者との交流を通して繋がりができた。 ・会員である、こども園(社会福祉法人みちのく会)の協力もあり、普段、子どもと接せることが少ない高齢者等地域住民と交流の場を設ける支援ができた。 ・開催を検討している地区から支援の要請があり、合同で実施することができ、地区コミュニティ維持に関する支援ができた。 ・協議会の少しの支援で地区の自主的な運営(実施)ができ、地区住民の積極的な係 | |

わりで普段、行事等に参加しない男性の積極的な参加や協力があつた。
 ・令和5年度に実施した3箇所に加え令和6年度は、新たに2箇所で行うことができた。
 ・地域貢献活動をマスコミ(新聞)に取り上げてもらう等、積極的な情報発信ができた。



小泊地域 多世代交流会
 (クリスマス交流会)



中里地域 田茂木 多世代交流会
 (昔のあそびで交流会)



小泊地域 多世代交流会
 (昔のあそびで交流会)



小泊地域 下前地区多世代交流会
 (ハロウィンパーティー)



中里地域 派立中 地域懇談会・交流会
 (地区住民によるマジックショー)

《ボランティアサンタクロース活動》

| | | | |
|--------------|---|--|---|
| 活動内容 | <p>・核家族化や、共働き世帯が大部分を占め、クリスマスの夜でも家族がなかなか揃うことが出来ない家庭も多くなっていることもあり、ボランティアサンタ訪問を希望する家庭を訪問し、家族に代わって子供にプレゼントを渡すサンタクロース活動(子育て支援活動)。 (訪問希望のあった家庭から事前にプレゼントをお預かりし、サンタクロースに扮したボランティアサンタクロースが訪問、サンタクロースを信じているお子さんは大喜び(ビックリ)。)</p> | | |
| 開催日時 開催場所 | 令和5年度 | <p>《実施拠点》 中里地域 中泊町老人福祉センター</p> | <p>3世帯(幼児・児童3人) ボランティアサンタ(2人)(高校生) 協議会関係者(2人)</p> |
| | 令和6年度 | <p>《実施拠点》 中里地域 中泊町総合福祉健康センター 小泊地域 中泊町高齢者生活福祉センター</p> | <p>6世帯(幼児・児童9人) ボランティアサンタ(5人)(高校生) 協議会関係者(3人)</p> |

| 課 題 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアサンタの人材確保。 ・協議会会員の協力(依頼方法) | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|---|---------|-----------|-----|---|-----|------|-------|-----|----|-----|-----|----------------|-------|-----|----|-----|-----|---|
| 費 用 | <ul style="list-style-type: none"> ・車両燃料 ・消耗品費 ・活動保険(ボランティア行事用保険) ・広報活動費 ・教養娯楽費 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 改善策・地域連携方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・各社会福祉法人、広報、町内こども園・保育園、子育て支援センターへ早めの周知で、訪問家庭とボランティアサンタの人材を確保する。 ・協議会会員(各社会福祉法人等)が運営支援、実施支援を行うことで、住民主体での活動も可能なことから、各地区(町内会等)の活動、イベントとして取り組んでもらうよう支援する。 ・実証終了後の令和7年度からは、「認知症地域支援・ケア向上事業」及び「生活支援体制整備事業」の財源を活用し実施する。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 効 果 | <ul style="list-style-type: none"> ・訪問家庭は「地域のあたたかさ」にふれ、ボランティアは「誰かのために」と思い、人生に何十回とあるクリスマスの日、福祉活動への関心や理解を深めることができた。 ・訪問した家庭からは、「良いことをやってる」「毎年やってるの?」「来年もお願いしたい、大変助かる。」との声もあった。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ニーズ調査結果 | <p>質問 「共生の場づくり事業」(学習会・多世代交流会・ボランティアサンタ活動)の活動は今後も必要だと思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度 \ 項目</th> <th>必要</th> <th>不要</th> <th>どちらとも言えない</th> <th>無回答</th> <th>ご意見等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>令和5年度</td> <td>56件</td> <td>1件</td> <td>23件</td> <td>32件</td> <td>一部の人の事業になっている。</td> </tr> <tr> <td>令和6年度</td> <td>52件</td> <td>0件</td> <td>25件</td> <td>23件</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・どれも必要な事業である ・子ども達の勉強に役立つ ・町内の方の顔が見れてよかった </td> </tr> </tbody> </table> | 年度 \ 項目 | 必要 | 不要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | 令和5年度 | 56件 | 1件 | 23件 | 32件 | 一部の人の事業になっている。 | 令和6年度 | 52件 | 0件 | 25件 | 23件 | <ul style="list-style-type: none"> ・どれも必要な事業である ・子ども達の勉強に役立つ ・町内の方の顔が見れてよかった |
| 年度 \ 項目 | 必要 | 不要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和5年度 | 56件 | 1件 | 23件 | 32件 | 一部の人の事業になっている。 | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和6年度 | 52件 | 0件 | 25件 | 23件 | <ul style="list-style-type: none"> ・どれも必要な事業である ・子ども達の勉強に役立つ ・町内の方の顔が見れてよかった | | | | | | | | | | | | | | |



ボランティアサンタクローズ訪問(高校生ボランティア)

3. 災害時の連携・支援体制

| | | | |
|--------------|---|---|--|
| 事業名 | 災害時の連携・支援体制の構築 | | |
| 目的 | 介護施設等での災害時の連携・支援体制を構築するには、施設自らでの防災知識の習得、災害への対応力向上、体制強化を行う必要があるため、研修会等を実施し、災害時の連携・支援体制の構築を目指す。 | | |
| 活動内容 | 県内においても災害が発生している中で、社会福祉法人や地区住民での災害時の連携・支援体制を構築する目的で、モデル実証中は防災・減災等について防災知識の習得や福祉避難所の理解を深めるための研修会等を実施する。 | | |
| 開催日時 開催場所 | 令和5年度 (3回) | ①介護施設等における「防災・減災」研修 ②業務継続計画(BCP)策定支援研修会 ③防災対策研修「福祉避難所の理解」 | 《参加者延べ66人》 協議会会員 50人 町内介護サービス事業所 16人 |
| | 令和6年度 (1回) | 福祉避難所研修会・模擬訓練 | 《参加者延べ60人》 協議会会員 22人 町内介護サービス事業所 6人 町外介護サービス事業所 32人 |
| 課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害発生時の連携、支援体制の構築に向けて更なる、各施設とも防災知識や体制強化を深める必要がある。町と連携し福祉避難所としての責務を果たせるよう、各施設職員各々が知識を深める必要がある。 ・業務継続計画(BCP)の運用、見直しを図りながら体制強化を図っていく必要があり、体制づくりには時間を要すると思われる。 ・災害時の備えや対応として、まずは「自助」が基本、そのあとは地域での「共助」が大切であり、そこに「社会福祉法人と地域」で共助の仕組みがあったらと感じる。 ・福祉施設が避難所の拠点(福祉避難所)として機能するには、関係者や地域住民との連携が必要と感じる。 ・令和7年度以降は活動する財源がなく、確保が必要である。(現在、国が防災に力をいれていることもあり今後の補助事業等に期待) | | |
| 費用 | <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費 ・賃借料(会場使用料) ・印刷製本費 ・講師料 ・福祉避難所運営訓練を実施した場合の実施費用 | | |
| 改善策・地域連携方策 | <ul style="list-style-type: none"> ・青森県内においても自然災害が起こっているため、次の研修会等を実施しながら連携強化を図る。 ①協議会会員(各社会福祉法人等)が経営する施設間での連携、強化するための研修会の実施、検討 ②整備した業務継続計画(BCP)の確認、見直しに関する研修会の実施、検討 ③福祉避難所の開設運営訓練等を実施、検討 ・福祉避難所の機能について地区住民に周知を図り、必要に応じて地区住民に協力 | | |

| | <p>いただくような体制づくりを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時や緊急時になって「今こそ互助・共助」といってもすぐに動けない。日頃からの備えが大事。 ・実証終了後の令和7年度以降、会員の施設を活用した実地訓練(福祉避難所開設と運営、多職種連携避難訓練)の実施を検討。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|---|---------|-----------|-----|-----------------|-----|------|-------|-----|----|-----|-----|-----------------|-------|-----|----|-----|-----|----------------|
| <p>効 果</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・防災知識を習得することが出来た。災害時の対応力向上のため連携・支援体制の強化、構築を目指す。 ・福祉避難所について、町と連携することで、従来の体制の見直しや、新たな体制づくりに向けて動くことができた。 ・業務継続計画(BCP)作成に関しては、各法人とも苦慮され、作成に関して多少の支援ができた。 ・協議会会員の参加協力も得られ、各施設等においても知識の習得、備えに関して必要な内容だと認識できた。 ・福祉避難所研修会・模擬訓練では「SgSE」(スグセ)を使った事業継続と福祉避難所開設のシミュレーションを実施、福祉避難所や事業継続のための備蓄品の量、他事業所との「連携・協働」、災害時の情報発信・収集について学ぶことができた。 ・地域貢献活動をマスコミ(新聞)に取り上げてもらう等、積極的な情報発信ができた。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| <p>ニーズ調査結果</p> | <p>質問 「災害時の連携・支援体制の構築事業」の活動は今後も必要だと思いますか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="347 1048 603 1149">年度 \ 項目</th> <th data-bbox="603 1048 756 1149">必 要</th> <th data-bbox="756 1048 908 1149">不 要</th> <th data-bbox="908 1048 1061 1149">どちらとも言えない</th> <th data-bbox="1061 1048 1214 1149">無回答</th> <th data-bbox="1214 1048 1485 1149">ご意見等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="347 1149 603 1312">令和5年度</td> <td data-bbox="603 1149 756 1312">77件</td> <td data-bbox="756 1149 908 1312">0件</td> <td data-bbox="908 1149 1061 1312">18件</td> <td data-bbox="1061 1149 1214 1312">16件</td> <td data-bbox="1214 1149 1485 1312">当町で実施することはとてもよい</td> </tr> <tr> <td data-bbox="347 1312 603 1451">令和6年度</td> <td data-bbox="603 1312 756 1451">52件</td> <td data-bbox="756 1312 908 1451">0件</td> <td data-bbox="908 1312 1061 1451">25件</td> <td data-bbox="1061 1312 1214 1451">23件</td> <td data-bbox="1214 1312 1485 1451">町会連と連携して行って欲しい</td> </tr> </tbody> </table> | 年度 \ 項目 | 必 要 | 不 要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | 令和5年度 | 77件 | 0件 | 18件 | 16件 | 当町で実施することはとてもよい | 令和6年度 | 52件 | 0件 | 25件 | 23件 | 町会連と連携して行って欲しい |
| 年度 \ 項目 | 必 要 | 不 要 | どちらとも言えない | 無回答 | ご意見等 | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和5年度 | 77件 | 0件 | 18件 | 16件 | 当町で実施することはとてもよい | | | | | | | | | | | | | | |
| 令和6年度 | 52件 | 0件 | 25件 | 23件 | 町会連と連携して行って欲しい | | | | | | | | | | | | | | |



防災・減災研修会



福祉避難所研修会(机上訓練)

活動の気づき(課題)・まとめ

- ・この事業(協議会)だけで地域の「あるべき姿・理想の姿」が達成されるわけではない。住民自らが住民同士一緒になって、普段からの穏やかな支え合いが大事。
- ・既存の資源(施設、組織、団体、人物など)の整理、つなぎ合わせることで新たなサービスを開発、新たな仕組みづくりとなる。地域に出て、地域の声を聴くことは大事。
- ・災害時や緊急時になって「今こそ互助・共助」だといってもすぐに動けない。日頃からの備えが大事。
- ・この事業(協議会)は「**地域のあるべき姿・理想の姿**」を達成するための使い勝手の良い道具。道具を活用していただき、やれるところからやってみる、という意識で**一緒に取り組むことが大事**。

協議会事業(モデル実証事業)の今後

令和7年度
以降も実施！！

①地域ナース活動事業

- ・地域(行政連絡員、民生児童委員、町内会、兼任集落支援員)と連携することで、地区で暮らす高齢者の状況を把握できます。支援の必要な高齢者等の自宅訪問や、地区の各種イベントでの健康活動を行う。

※地域ナース活動は看護師のみの活動に限らず、他職種の活動を促進する。

-
- ①ヒトとコトをつなぎ、まちを元気にする。
②地域の人を力を引き出し、まちの可能性をひろげる。
③地域に必要な機能をつくる。※一緒につくる。
のコンセプトで事業の企画、調整、実施する。

・認知症者(家族)支援とケア促進
【孤独0(ゼロ)プロジェクト】

-
- ①気づく
 - ②繋げる
 - ③寄り添う
 - ④居場所づくり、社会参加

②共生の場づくり(居場所づくり)事業

- ・地域ナースの知見を活かし、資源の活用と、地域を巻き込み、一緒に展開していく。(孤独防止・学習支援・福祉教育・認知症者支援など)
- ・住民主体の移送支援サービスの実施(開発)にも今後、取り組んでいきたい。

③災害時の連携・支援体制の構築事業

- ・5年度、研修会「防災減災、福祉避難所、業務継続計画(BCP)」で知識の習得。
- ・6年度、机上訓練(福祉避難所開設運営シミュレーション)で備えや施設同士での連携を学ぶ。
- ・7年度以降、会員の施設を活用し実地訓練(福祉避難所開設と運営、多職種連携避難訓練)を実施したい。

中泊町地域貢献活動連絡協議会

事務局：社会福祉法人中泊町社会福祉協議会

037-0305

青森県北津軽郡中泊町大字中里字亀山170-1
(中泊町総合福祉健康センター「湯らぱーく」内)

☎ 0173(57)4841